



—東地中海地域ニュース—

トルコ：ダーヴトオウル新外相による外交政策に関する発言 (5月1、2日付現地紙)

5月1、2日付現地各紙は、ダーヴトオウル・トルコ新外相について報じている。概要は以下の通り。

1. 2日、ババジャン前外相から引継を受けたダーヴトオウル外相は以下を述べた。
 - (1) トルコは、もはや危機が生じた際に反応するだけでなく、危機が生じる前に察知し、効果的に対応し、周辺地域の秩序を構築する。
 - (2) トルコは、中東、バルカン及びコーカサス地域について強力な外交ビジョンを有しており、これら地域において必ずや役割を担うであろう。
 - (3) 西側志向の基本的な外交政策は維持しつつ、EU加盟の努力を継続する。
2. 今回の内閣改造における主要な変化は、首相首席補佐官であったダーヴトオウル氏を外相に任命した事である。トルコ政界において、国会議員でない者が入閣する事は希なことである。
3. ダーヴトオウル外相は、昨年数回にわたるシリア・イスラエル間の間接和平交渉を仲介し、1月にはイスラエル・ハマスの停戦に向けた国際的取り組みの一環として、両者間の仲裁を行ったトルコ政府代表団の団長を務めた。